

# Inter BEE 2023レポート

公益社団法人 日本舞台音響家協会 副理事長 小塚 和夫

今年で59回を迎えたInter BEE 2023は11月15日、16日、17日の3日間、幕張メッセホール1～6に於いて実施されました。

登録来場者は11月15日は11,300名、16日は10,285名、17日は10,117名、計31,702名との事。

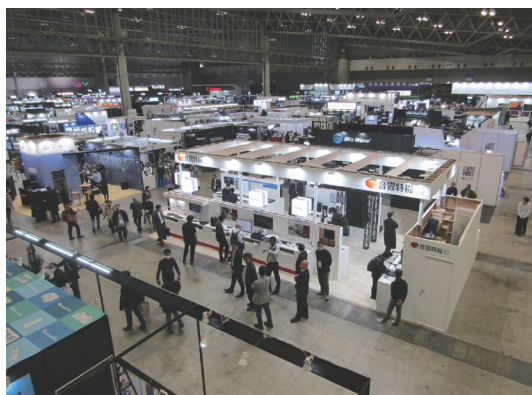
昨年の登録来場者数26,901名よりも4,801名多い来場者だった。(ちなみにOn-line来場者数は13,992名)

使用ホール数は昨年と同じだったが昨年はかなり隙間が空いて休憩スペースやバックヤードがかなり広がった記憶が有る。そう考えると出展社とブース数もコロナ以前に戻りつつあるのかなと思った。確かに初日にはオープン前の入口の前にはものすごい人がいた。開場してからも最初かなり混雑していたように見えた。

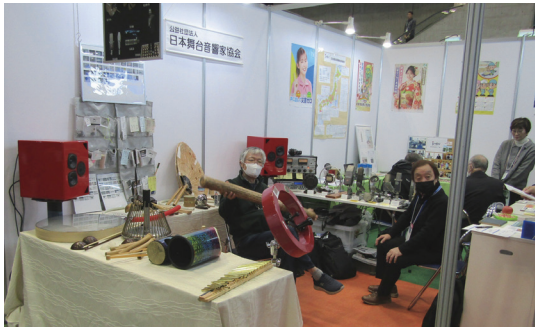


□ 今回のInter BEEは幕張メッセホール1～6を使用、プロオーディオ部門はホール1とホール2の一部、その他はホール3の半分くらいまでとホール5と6が映像制作/放送関連機材部門となっていた。

当公益社団法人 日本舞台音響家協会の



ブースはホール1のブース1503で、効果音用の音具と辰口コレクションのMicrophoneの一部を展示した。130年前のカーボンマイクやクリスタルマイク、TOSHIBA製のBベロやRCA-77や77DXなど現行製品のEV製RE20まで十数種だった。



当協会ブースとなり(奥)は日本舞台音響事業協同組合。  
見えているSPが、TOA ME-50FS



米国WEのダブルボタン型カーボンマイク(左)と  
日本製カーボンマイクLEITZ



辰口共衛コレクションの貴重なビンテージマイク

ブースに立ち寄ってくれた学生達はRE20以外は初めて見るものばかりで、ヘッドホンであれこれ確認しながらこのマイクの音が好きとか自然な音とか話していた。

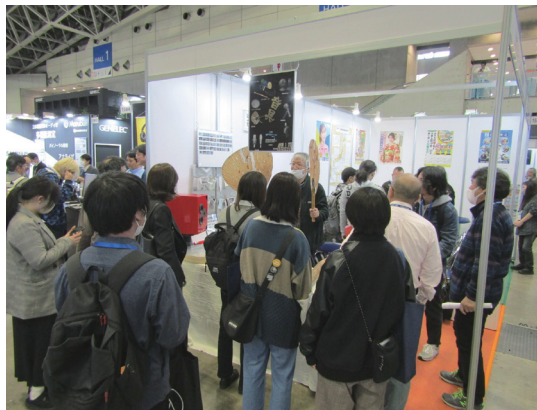
ブログ「ShinさんのPA工作室」でおなじみの相澤慎平氏もブースに来て「僕も初めて見るマイクが有る」とか「このマイクのリボンは張り替えが出来るから昔のような音が復活するかも」などと話してくれた。

今回もブースには<研究コース>でコラボしているTOA株式会社よりFerrariRedのME-50FSをお借りして音具で録音したCDをエンドレスで流していたのだが「あまりにも生でならしている音具の音とソックリと言うかどちらが生か聞き分けが出来ない。定位感も良くて筆者が来場者に音具をデモしているにもかかわらず遮られずに定位している。」と

言われたのでTOAのブースに案内した。

ブースに立ち寄ってくれた方は130年前のカーボンマイクをみて「玉音放送を録音したのはこんなマイクだったんだろうね。」とか「初代のゴジラの映画でアナウンサーと思える人がニュースを伝えているシーンで使われていたのはこんなマイクだったよね。」とかスマホの中の写真を見せながら話していた。

音具の音出しは昨年同様大好評で、学生達は何人かのグループで足を止めて見たことの無い音具の使い方を質問してきたり試しに音を出したりひっきりなしに対応をしなければならなかった。



音具に魅せられ(?)多勢が足を止める

□このような状態だったので会場を回ってみる時間もあまり取れなかったのだが、PA屋としては今話題になっているイマーシブオーディオには興味をそそられた。

U2が2023年9月29日にラスベガスで行なったライブがものすごい反響で同時にイマーシブオーディオについても頻繁に耳にするようになっていたのだ。

2023年の4月にd&b audiotechnik社が国内数カ所においてデモンストレーションを行なった案内をもらったのだが、仕事の都合で参加出来なかったのだった。

Inter BEEではd&b audiotechnik社の他にYAMAHAとベステックオーディオもブース内に大きなスペースを取りデモンストレーションを行っていたのだが、どれも事前登録が必要だったり一人位だったら何とかしますよと言われていたのだったがどれも時間が取れず体験することが出来なかった。

ただオタリテックのブースでd&bの小型スピーカーを沢山使ってd&b audiotechnik社が提唱するシステムをデモしているのを体験することが出来た。

係の人の説明では5.1サラウンドが2Dとすればイマーシブオーディオは3D的かなとの事。個人的にはこれはこれでアリなのかもしれないとは思った。ただPA現場にはいろんな場合があるので色々な場面について質問をしたかったのだが、他に待っている人が沢山いたので断念した。



2日目のd&b Soundstageのデモはすべて満席

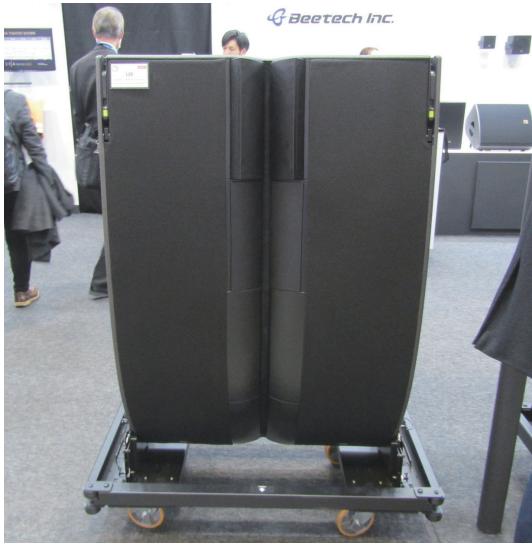
d&b audiotechnik社のイマーシブオーディオのデモンストレーションをブースで体験した人によるとDelayを駆使したプロセッシングをしているようだ、Delayを駆使しているためか聞いている場所によっては低域に違和感を持ってしまったと話していた。

YAMAHAのブースで体験した人によればDelayでは無くても細かな音量調整を基本にしているようだと話してくれた。YAMAHAのブースでスタッフに色々質問したところ、まだ研究を始めて時間が経ってないので手探りでここまで来た、まだまだ発展途上ですと話してくれた。いままで音場支援システムをいくつも行ってきた会社なのでこれからが楽しみである。

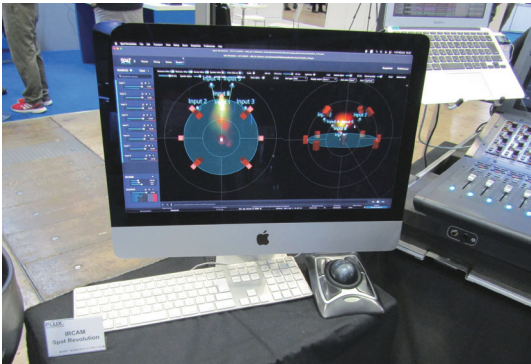
ベステックオーディオではL-ACOUSTICSのLシリーズという大型のスピーカーとL-ISAテクノロジーを使用した物となっていた。これも時間が合わずに体験できなくて残念だった。スタッフの話ではどちらかというとなら



YAMAHA AFCの心臓部



L-ACOUSTICS L2D



こちらもイマーシブオーディオのIRCAM Spat Revolution



TiMax2 Soundhub

かな音量調整による物が基本になっているとの事であった。

しかしシステムがとても大きな物なので気

軽にデモンストレーションが出来ないのが難点とも話してくれた。

何処のメーカーのシステムもそれぞれだとは感じたが早く体験したいものだとも思った。

□研究コースでお世話になっているTOA株式会社とは今回もコラボしていただきまして、先に書いたように通称変電所とよばれている電源トランスと音の物差しを目指して作られたME-50FS パワードスピーカーをお借りしました。当協会のブースにおいてこのスピーカーに興味を持った方はTOAブースの松本泰技監のいるデモンストレーションコーナーへ案内した。そこでは200Vからバランスの100Vに変換した電源を使いアースも会場のアースpointへ接続していた。ちなみにアースの電位差は0ボルトとの事であった。

確かにブースには人が途切れることは無く、アメリカからの著名なマスタリングエンジニアからも高評価をいただいたと話していた。

このトランスについてはいくつかのブースでも話題になっていた。

□今回、ブースを回って感じた事はまだまだ半導体不足が解消されていないこと、半導体不足でディスコンになった製品の代替えもままならないことなどであった。ただその代わり現行の製品とこういうのをこう組み合わせると面白いことが出来たりとチョットしたエポックが幾つもあった。

最後に**X-Speaker**、SRスピーカー体験デモであるがヤッパリ爆音競争は変らなかった。

そろそろやり方を変えた方がいいのかもしれない、いや変えないとダメだねと会場に同

行したPA部会長白梅氏と遅い昼食をとりながら話していた。



X-Speaker会場の模様



X-Headphone/X-Microphoneも例年通り開催



ClearCom製品を統合するArcadia(中央1Uの製品)

次回のInter BEEの応募要項などがInter BEE事務局のホームページにのっていると聞いた。

次回は今年よりも活気のあるInter BEEである事をねがいがながら筆を置くことにしたい。



WLのモニター機能が豊富 SHUREのWAVETOOL



DiGiCo Quantum852 巨大!



ヤマハサウンドシステムのネットワーク監視システム



Powersoft UNICA 8Mの筐体内



GreenGoのパネルマウントタイプGGO-WPX(上・中央)



Luminex GigaCoreシリーズ



Wisycomの録音機能付トランスミッター(上・中央)ほか

